

## 第2・3回 合同会議の概要

1 日 時 令和元年6月4日（火）、7月22日（月）

2 場 所 旭川市立朝日小学校 図書室

3 内 容

(1) 今年度の研究について

- ① 単元デザイン「習得一活用」を、意図的に計画した単元づくり。
- ② 子供自ら学びをマネジメントし、子供自身が、「見通し」をもって、「振り返る」授業づくり

(2) 朝日小校内研修研究授業

2年2組国語科「夏がいっぱい」授業者 西岡潤二

① 研究授業の視点

- つながる学び、質の高い学びについて子供の姿で実現しているか。
- 教師が予想する「児童の思考の流れを実現するための思考アクティブ化ポイント」が有効であったか。☆思考アクティブ化ポイント→⑩「広げてみる」

② 研究協議

- 本時の目標、課題、まとめのつながりを考えると、夏を感じる言葉を集めて語彙を増やすときに、中心の言葉を「夏」にするなど、全員同じ言葉から広がる言葉をみんなで共有して、語彙の広がりを感じるようにすることができたら、個の学びが全体につながったのではないか。
- 教師が、児童のつぶやきを上手に拾ってつないでいた。また、担任の声掛けで児童のやる気が持続していた。集めた言葉をどの程度使って、どのような文を作ったらよかったのか、視点を明確にすると質の高い学びにつながったのではないか。
- 本時の目標「夏を感じる言葉を集め、短文を作って語彙を増やすことができる。」の短文を作ることが目的になっていたので、語彙を増やすという視点を明確にする必要があった。1つのものを多面的に見ることを通して、語彙を増やし、増えた言葉を使って短文を書くなど、語彙の広がりを感じるができるよう、本時を展開する必要がある。
- 教師は、思考アクティブ化ポイント⑩を「夏に関係する言葉からイメージを広げ、短文作りへつなげる。」としたが、個人の活動から、グループ活動へ展開する目的が明確でなかったため、深い学びの姿としてはやや物足りなかった。グループでの意見交流を通して、夏を感じる言葉の個々のイメージを、どんどん膨らませ、語彙が豊かになることを確認できるとよかった。

(3) 各校の予定

10月10日（木）旭川市立中央中 （市教研国語で授業）	11月下旬 12月6日（金）	小樽市立菁園中 旭川市立朝日小
10月21日（月）帯広市立柏小		
11月上旬 旭川市立知新小		

- ① 研究授業を参観し協議する。
- ② 指導案及び資料を朝日小にデータで提出する。